

## 「何をしてほしいのか」

2014年10月14日

マルコによる福音書 10章 46節～52節。一行はエリコの町に着いた。イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、バルティマイという盲人の物乞いが道端に座っていた。ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

主イエスの一行はエリコに着いた。エリコから山道を上ってエルサレムに向かう。出発しようとしていた時、道端に座って物乞いをしていたバルティマイという盲人の「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」という声がした。彼は人づてに、主イエスは盲人の目を開けるしるしを行う方だと聞いていた。エリコに来られることを、待ちに待っていた。今、そのイエスが通りかかっている。彼は声を張り上げて、呼びかけた。弟子たちは、今から主イエスはエルサレムに上り、大切な仕事をされる、盲人などに関わってはおられないと、叱りつけ、黙らせようとした。しかし、彼はますます「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。叫び声を聞いた主イエスは立ち止まって「あの男を呼んで来なさい」と言われた。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ」という招きの言葉を受け、彼は上着を脱ぎ捨て、足取りはヨロヨロしていたであろうが、喜び踊るように、主イエスのところに駆け込んで来た。主イエスは「何をしてほしいのか」と聞かれた。盲人の願いは聞かなくても分かっている。それにもかかわらず「何をしてほしいのか」と問われた。彼は即座に「先生、目が見えるようになりたいのです」と答えた。「何をしてほしいのか」という問いと「先生、目が見えるようになりたいのです」という答えが、がっちりかみ合っている。主イエスは彼の真っ直ぐな願いを受け入れ「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と宣言された。すると、目はすぐに開かれた。彼は喜びに満たされ、一行に加わりエルサレムに同行して行った。

バルティマイは暗黒の世界を生きていた。ナザレのイエスのうわさを聞き、望みを持った。イエスが来られたと知って、邪魔者扱いされるのを振り切って、望みに向かって一直線に進んだ。それが彼の信仰であった。主イエスは「あなたの信仰があなたを救った」と顧みてくださった。救ったのは主イエスの憐れみであったが、「あなたの信仰はあなたを救った」と言うてくださる。信仰は望みに生きることである。

ヘブライ人への手紙 12章 1節に「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」と書いている。主イエスの「何をしてほしいのか」という問いかけに「はい、これです」と望みをはっきり申し出る者でありたい。そして、今まだ叶えられていなくとも、叶えられている恵みを信じて、今を喜ぶ。なぜなら、神は私たちに必要なものをご存じだからである。